

第2回武蔵野市立武蔵野プールおよび武蔵野温水プールの整備方針に関する有識者会議要録

日時：令和6年8月6日(火曜日) 午後3時から午後4時30分

場所：市役所西棟8階 811会議室

出席委員：小林宏委員、林立也委員、松田雄二委員、水谷俊博委員、宮下みさ子委員

会議進行：東畑建築事務所

事務局：教育部長、教育部生涯学習スポーツ課係長ほか

1 開会

2 配付資料の確認

3 議事

議事1 第二期武蔵野市スポーツ推進計画での検討について

事務局より「資料1 第二期武蔵野市スポーツ推進計画__プールの今後のありかたについて」説明

【委員】メリット・デメリット比較表内で“市道第17号線・第41号線の隅切”とあるが、これは交番の位置を変更するという意味か。

【事務局】第二期スポーツ推進計画策定時は交番の位置変更も含め検討をしていたが、市道第17号線の電柱地中化工事との兼ね合いもあり、現時点では確定的ではない。歩道の拡幅は必要と考えている。

【委員】“スポーツ施設の集約を検討できる余地がある”という点についてご説明をいただきたい。

【事務局】多目的スペースの場所が十分に確保できれば、様々なスポーツを行う場所として有効活用が見込まれることを想定している。

【委員】現状建物は様々な問題があるため、案1は現実的ではなく、案2案3の考え方を整理していく必要があると考える。コストが10億円程度差があることより、プール周辺の敷地の使い方で差が生まれると考える。

【委員】“デメリットに長水路の大会開催ができない”とあるため、屋内50mプールを設ける4つ目の案があると考えます。

【進行役】案3の派生として、屋内50mプールを設けた際に防災的な余剰スペースがどの程度確保できるかを含め、今後検討していきたい。

【委員】施設へアプローチする際の各所での動線計画が魅力的な施設づくりにつながると思う。規模や性格も異なるが、例えばピーター・ズントー設計のテルメ・ヴァルス（スイス）は、中に入っていく動線空間がワクワク感を創出しており、1つの参考となると思う。

【委員】各案でプール面積が異なり、サービス量も差があると思う。サービス量の違いも比較対象とした方が良く考える。また、各案で光熱費の差もある。

【委員】比較表内で記載のある“屋内プールの充実”についてご説明いただきたい。

【進行役】屋内に幼児用プールやジャグジーなどの様々な方が利用できる競技用以外のプールを設置できる余地があることを屋内プールの充実と表記している。

【委員】現状の屋内プールにも15mプールがあるので、×ではないと考える。

【事務局】“屋内プールの充実”について、25mプールのコースが7レーンから9レーンへ増設できることも含まれている。また、サービス量の違いによる光熱費のランニングコストについては、試算をしていないのでご了承いただきたい。サービス量の違いに関しては、第3回会議で議論したいと考えている。

【進行役】コストだけでは図れないサービス量や質に関しては、次回に議論をする場を設けたい。

議事2 誰もが利用しやすいプールの整備について①

- 1) 現施設の利用者動線について
- 2) 都内公営プールの現状について

進行役より「資料2 温水プール増築以前、以降の動線図比較資料」と「資料3 都内公営プールの仕様等一覧」説明

【委員】人口当たりのプール個所数は、全国平均で4.26か所/10万人。東京都は2.81か所/10万人で、全国46位となっている。武蔵野市の人口は14万人なので、民間施設も含めた人口当たりのプール個所数を調査できると、1人当たりのサービス量がわかると思う。

【委員】屋外プールの廃止が多くなっている背景には、使用期間が限られているにも関わらず、多額の維持管理費がかかることが挙げられる。しかしながら、非常に気候変動がある中で議論するのは難しいが、学校の屋外プールの廃止が多くなると、むしろ公営の屋外プールという要素は大切になってくるとも考えられる。

【委員】屋外プールの廃止が相次ぐ中、武蔵野のプールは屋外があるという特色を付けるのも良いかもしれない。維持管理費と気候変動なども考慮しなければならないが、屋外プールが気持ちよと感じた施設もあった。気候変動に対しては、半屋外空間を作るなど多少の対策はできると思う。

【進行役】スポーツ関係者として、近年の屋外プールの傾向や武蔵野プールの現状を含めてどうあるべきかご意見いただきたい。

【委員】屋内プールは民間、屋外プールを公営とするように役割を分けても良いかもしれないが、夏場はプールサイドで足の裏を火傷してしまう事象も発生しているので、昨今の状況を鑑みると屋外プールの設置は難しいかもしれない。

【委員】資料によると、多摩地区では、屋外プールは幼児用やレジャー用となっている施設がほとんどで、競技用として整備しているのは武蔵野市のみ。競技用屋外プールはとても貴重だと思うが、年2回しか大会をしていないことを考慮すると廃止しても良いと考える。1点お伺いしたいが、猛暑が予想される中、武蔵野プールでは今年も屋外プールの利用者は多いのか。

【事務局】コロナ禍を除き、今年度も昨年度と同程度多くの利用客がいる。統計は取れていないが、猛暑の影響により一人あたりの利用時間に変化があるかもしれない。

【進行役】競技用としての屋外プール、気持ちいい空間としての屋外プールなど、誰もが気持ちよく入れるプールという観点から、屋外プールのあり方を考えていく必要がある。

【委員】屋外プールは開放感があり非常に気持ちいいというメリットがありつつ、子供の立場に立つと大人から怒られずに遊べるという心理的な開放感とルール上の開放感があると思っている。ですが、屋外プールは入れる日が限られている、紫外線が非常に強いなど課題点もあるので、幼児ではなくて小学生程度の子供も気兼ねなく遊べるプールなどがあれば、屋内プールのみでも良いと考える。

3) スポーツ推進計画での整備案について

進行役より「資料4 都内公営プールの仕様等一覧」と「資料5 武蔵野市営プール模型」説明

【委員】利用客の動線も考慮すると、プールの顔となる部分が市道17号線側にも開く構成となればよいと思う。また、多目的スペースの活用の仕方で印象が変わってくると思う。イベントは年に何回かかもしれないので、憩いの場所づくりなど普段はどう使うかを考える必要がある。また、隣の体育館や陸上競技場、テニスコートなど全体を結ぶ場所づくり、ランドスケープを考慮した計画が大切となる。

【進行役】体育館の利用者もいるので、広場に向けた顔づくりという考えもあるので、施設管理者の意見も踏まえて今後検討をしていきたい。また、駐輪場をまとめて広場を十分に確保するなど、敷地全体で機能の整理は必要になると考える。

【委員】カフェを設ける、十分な見学スペースを確保するなど、今後付帯施設も考えていければいいと思う。

【事務局】隣のクリーンセンターを事例に挙げると、クリーンセンターは、地産地消エネルギー利用として、このエリア全体のエネルギーを賄っていることもあり、かつまちづくりとして、周辺エリア整備を意識しつつ従来閉鎖型だった廃棄物処理施設をオープンした背景

がある。市営プールは、そのエリアの1つの施設として、多目的スペースの使い方も大切と
考えている。

【委員】既存プールを使いながら新築を行うことも考えているか。

【進行役】考えていない。解体後、新築を行う計画を想定している。

【委員】多くの利用者がいるので、建替えながら使えたらいいかもしれない。

【委員】できないことはないが、難しいかもしれない。

【委員】屋根は可動式にするのか。

【進行役】屋根は可動式にせず、固定の屋根で考えている。

【委員】敷地に十分な広さがあるので、施設やプール内に屋外の吹抜け空間を設けるなどを
すれば、施設の内外部がつながる場ができ開放的な空間となると思う。

【委員】プールまでの動線がワンフロアで解決するのが良いと考える。

【進行役】見学スペースは2階となるので、エレベーターを設け、足の不自由な方でも利用
できる施設づくりを目指していく。

【進行役】大会を運営するにあたって気になる点があればご教示いただきたい。

【委員】大会や団体利用の際、チームごとに集まって話し合いを行ったり、休憩したりする
スペースが必要となると考える。

【進行役】市民利用の他に大会時に必要な設えもあると思うので、いつでも誰もが利用しや
すいプールという視点で、今後検討を進めていければと思っている。

4 その他

事務局より 事務連絡

【事務局】第2回武蔵野市立武蔵野プールおよび武蔵野温水プールの整備方針に関する有
識者会議を閉会する。